

第 16 回国際小児がん学会アジア総会オープニングセレモニー

秋篠宮皇嗣妃殿下お言葉（和文仮訳）

2024 年 6 月 22 日

本日、第 16 回国際小児がん学会アジア総会（SIOP Asia 2024）の開会式に皆様とともに出席できたことを大変うれしく思います。この大会の準備にご尽力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

SIOP は、世界最大の小児がん国際学会です。1969 年に設立され、現在 3,000 名を超える会員を有し、「がんで亡くなる子どもをなくす」ことを活動の目標としています。そのアジアブランチである SIOP Asia の総会は、日本での開催は今回が初めてとなります。SIOP および SIOP Asia の皆さまが、世界の小児がん医療の発展のためにたゆまぬご努力を続けてこられたことに、深く敬意を表します。

ゲノム医療をはじめとした医学の進歩により、先進国における小児がんの治癒率は以前と比べると上がってきています。しかし、小児がんはその多くが希少がんであり、子どもたち一人ひとり病状がさまざまで、正しい診断が難しいと伺っています。また世界には、地域によってまだ十分な医療を受けることができない、あるいは医療機関にアクセスする機会が限られる子どもたちがたくさんいます。WHO の The Global Initiative for Childhood Cancer では、2030 年までに世界の小児がん治癒率を 60%にすることを目標としています。この目標に向けて、これからも国や地域を越えて皆様が協力を続けることが大切です。

医師、看護師、家族、そしてそれを支える方々は、子どもの命を救うためにできる限りのことをします。しかしこれは新たな章の始まりに過ぎません。治療によって子どもの命が助かったとしても、その子が何年も背負うことになる晩期合併症が起こる可能性があるとなりました。小児がん経験者は、治療後もフォローアップ外来に通い受診する必要があります。

最新の科学研究から得られた知見によれば、乳幼児期の子どもの発達を促進するためには、医療関係者が身体機能と心理機能の両方に着目する必要があります。社会性や情緒、認知の発達が、子どもの考え方や行動、人との関わり方に強く関連するからです。これらは子どもが学校に戻り、大人になっていく際の重要な機能になります。がんの治療中やフォローアップにおいて、子どもの心の発達への支援もまた、とても重要でしょう。小児がんの問題は難しい社会的課題であり、この大会に集う皆さまと世界の SIOP のメンバーが垣根を越えて協力し、子どもたちの未来のためにより良い答えを見つけることが大切です。

この大会が、がんに罹ったすべての子どもたちの生活の質を尊重し、こどもたちがよりよい人生を送るためのさまざまな課題を議論する場となることを心から願っています。最も弱い立場にあり、最も支援を必要としているのは、このような若者たち、子どもたち、赤ちゃんたちなのです。

皆さまのご尽力と慈しみのお気持ちに感謝し、この式典に寄せる言葉といたします。